

2018年8月23日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 495

### 発達障害学生の入学・学修・就労支援の深化3

～ 差別解消に向けて／学生支援の社会連携ネットワーク／合理的配慮と学生支援の質 ～

9月7日〈金〉開催

ご参画・ご派遣のお願い

7月発表の学生支援機構『平成29年度障害学生の修学支援実態調査』によれば、全国の大学・短大・高専1,170校に、発達障害学生（診断書有）5,174人、同支援学生（診断書無含む）6,889人となり、在籍学校は703校（60.1%）となっております。

学生支援の実施校639校をみると「授業支援」においては「配慮依頼文書の配布」（52.3%）、「学習指導」（37.6%）、「履修支援」（37.4%）、「出席に関する配慮」（30.7%）、「授業以外の支援」においては「専門家によるカウンセリング」（66.5%）、「対人関係配慮」（45.7%）、「自己管理指導」（44.0%）等が取り組まれております。

また、総務省『発達障害支援に関する行政評価・監視〈結果に基づく勧告〉』が昨年1月に公表されております。その中で「大学における発達障害に対する教育上の配慮の状況」等の項が参考となりました。

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/110614.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/110614.html)

分け隔てのないインクルージョン（包括・包含）共生社会の実現に向け、「発達障害」者へのシームレスできめ細かい対応が今後益々求められております。そのためには、「発達障害」への理解を深め、支援方をさぐり、経験や知識を共有することが重要となります。

本セミナーでは、「知識」と「経験」を兼ね備えた4名のキーパーソンにご出講いただき、入学・学修・就労支援の実際について論展を賜ります。

明星学苑の村山光子氏には、「何を」「どこまで」支援できるか・するべきか、入学から卒業・就職までの包括的支援、合理的配慮とその支援の実際についてご講義いただきます。

Kaienの藤恭子氏には、発達障害学生の就職支援における学外の就活サークル「ガクプロ」での取り組みを中心に、学生の個々の特性を活かし就職し定着するためのポイントや、大学に求められる支援策についてご講義いただきます。

富山大学の日下部貴史氏には、高校からの接続、修学・就労活動支援から、卒後のフォローアップ支援までのシームレスな取組みの実際・事例や特徴について詳述いただきます。

長崎大学のピーター・バーニック氏からは、諸外国との比較を踏まえて、5つのキーワードごとの検証、3タイプの学生への支援の実際と関連課題、そして今後への提言について論展いただきます。

つきましては、ご多用の折とは存じますが、貴学のキーパーソン各位に、ぜひともこの機会にご参画・ご派遣を賜りますよう、お願い申し上げます。

開催日が迫る中でのご案内となり恐縮ですが、ご関心の各位にご転送・ご案内いただけましたら、幸いです。

パンフレット版は、下記よりご覧いただけます。

<http://chiikikigaku-k.co.jp/kkj/seminar/h3008270907.pdf>